

No.332

理研会報



2月20日(水)、成田市立成田小学校にて、第3回役員会及び第2回研究員集會が行われました。役員会では、今年度の事業報告、来年度の事業計画等について事務局より提案いた

しました。研究員集會では、それぞれの部会の研究概要について報告があり、北総教育事務所の岩井睦主任指導主事より、研究の方向性についてご指導をいただきました。

今年度も、郡理科研究部の活動にご理解、ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

平成19年度を終えて

「勢いのある理科研究部へ」

研究部長 飯田 和宏(根木名小学校長)

「暖冬」という言葉が定番化しつつある中、今年は最近にない寒い冬を味わっていますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、お陰様で平成19年度も、会員の皆様のご支援、ご協力により、年度当初予定していた印教研理科研究部としての事業をそれなりの成果を残しつつ終了することができました。心より御礼申し上げます。

しかし、課題や今後の努力点も数多く見えてきたのも事実です。そんな中から3点について会員の先生方のご支援とご協力をお願いし、お御礼と来年度への方向付けとしたいと思います。

< 1. 教育研究(研究推進)の充実 >

本研究部は、近隣の学校が連携し共同研究を進めている数少ない研究部の一つです。共同研究だからこそ日々の授業実践に還せる研究、広がりのある研究になっていると感じてきましたが、ここ数年の研究発表、研究推進の状況を見てみると、その場しのぎの傾向が強くなっていると感じられます。どの部会も研究員の拡大・確保等に課題を抱えつつも、現場教師としての使命感と積極性にあふれた研究実践、課題を明確にし、子どもたちに還元できる研究実践を、もっともっと中身濃く推進していくことが今後求められてこようかと思えます。各部会の研究推進に敬意を表しつつ一層の充実を期待したいと思います。

< 2. 研究部員の拡大 >

19年度総会の折り、「理科研究部としての勢い」というお話をさせていただいたかと思えます。この勢いは、会員の積極的な実践とともに仲間の数であろうかと思えます。

以前理科研究部の先輩から、理科研究部の懇親会は「口角泡を飛ばす」会であると言われました。「子どもたちに理科学習の楽しさ、追求の喜び」を味わわせるためにも、「理科」を語り合う仲間を増やすことは、まさしく「教師力」を高め合っていく第1歩であると感じています。来年度、理科の仲間が今年度以上に増えているよう、会員の先生方の積極的なご協力をお願いしたいと思います。

< 3. 作品展の充実 >

「次につながる。」「もっと調べてみたい。」「こんなことができたらいいな。」まさしく日々の理科の学習が「うるおいのある活きた学力」へと変容していく姿であろうかと思えます。「考える。工夫する。気づく。」先生方ははじめとした、子どもたちの周りの大人のちょっとした一言が、子どもたちの創造力に火をつけます。今年度は県展において昨年以上の成果を収めることができました。来年度以降も日々の理科の学習が「うるおいのある活きた学力」

へと変容していく姿のあらわれとして、数多くの作品が出品されますようお願いをいたします。

戦後、「科学立国」「物づくり大国」として成長してきた日本。その原点は「理科教育であった」と振り返る人々がたくさんおります。と同時に「科学立国」「物づくり大国」として成長してきた日本を再び盛り上げなければという声も数多く聞かれています。現に新しい学習指導要領においても、「理数教育の充実」ということが語られてきています。

そのような状況の中、直接子どもたちとのかかわりの中で理科学習を推進してきている現場人として、私たち理科研究部の役割を今一度見つめ直し、多くの仲間とともにその充実に努めていくことが問われているかと思えます。

平成19年度、会員の先生方のご支援、ご協力に感謝しつつ、今後、ますます「勢いのある研究部」としての取り組みをお願いして、年度末のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



時間が空いてしまいましたが、昨年の富里市立根本名小学校の公開研究会を参観した先生方のご感想を掲載いたします。紙面の都合により、掲載が遅れてしまいましたことを、お詫びいたします。（詳しくは理研会報 NO. 330 に掲載しております。）

「根本名小学校印教連指定理科生活科公開研究会の感想」

酒々井町立酒々井小学校 小川 真理 先生

学習指導案を見させていただき感じたことは、指導計画がわかりやすく、一時間一時間を大切にしているということです。付箋を色分けして貼ったり、フライパンでホットケーキ作りをしたりするなどの導入の工夫から、「つかむ」「調べる」「深める」の学習過程が全学級で統

一されていたことに感心させられました。また、展開を見させていただき、一時間の学習の流れが非常に明確であると感じました。「問題」「予想」「方法」「実験」「結果」「考察」「まとめ」の流れを、子どもたちがよく理解し活動している姿が多く見られ、大変参考になりました。講師の先生のお話にもあったように、言葉で予想や考察をし、友達同士の交流で考えを深め合える授業を展開していけるよう、これからも精進していきたいと思えます。ありがとうございました。

「理科生活科公開研究会を参観して」

成田市立成田小学校 棚町 尚子 先生

1、2年生の授業を参観させていただきました。1年生の「ねこのあきをみつけたよ」では、「秋ランド」を楽しむ、楽しませるというめあてをはっきりと子ども達がもてるように指導されていたのだと感じました。「松ぼっくりバスケット」で、高得点のかごの底が抜かれていて、自動的に低い点数のかごに入る仕掛けがされていることに驚きました。子ども達だけでなく、挑戦された先生方も驚かれていました。その様子を見て、店員役の子ども達は満足そうでした。おもちゃを作る際に、何が難しいのか、どのようにしてお客さんを楽しませるのかを十分に予想したり考えたりしていたからだと思います。2年生の「自分大好き みんな大好き！」の授業では、一人一人に成長を実感させる手立てがなされていて、大変参考になりました。成長の様子は違っても、どの子も嬉しそうな表情が印象に残りました。

理研会報の原稿をお寄せいただいた先生方、誠にありがとうございました。来年度も、広く先生方の声を掲載し、より充実した理研会報を発行してまいりたいと思えます。ご協力よろしくお願いたします。

なお、これまでの理研会報につきましては、郡理科研究部のホームページにて閲覧することができます。是非、ご覧下さい。

印旛地区理科研究部ホームページアドレス
<http://rikainba.or.tv>